

【資料3】「県庁女性職員有志の会」職員アンケート報告（抜粋）

1 アンケート調査概要

（1）調査時期

平成26年9月

（2）調査主体

職員自主研究グループ「県庁女性職員有志の会」

（3）調査方法

イントラネットにより配布・回収

（4）対象職員

本庁に勤務する職員 2,866人

（5）回答者数

1,635人（回答率57%） ※うち女性職員 438人（27%）

2 報告概要

（1）仕事に対する意識

- ・ 「将来どこまで昇任したいと思うか」の問いに対し、「課長以上」又は「課長級」と回答した職員の割合は、男性39.5%、女性16.0%。女性は「昇任したくない」と回答した職員が36.1%で最も高い。
- ・ 管理職まで昇任したいと回答した女性職員は、主査では12.5%（男性32.4%）、係長では26.5%（男性49.0%）であるが、課長補佐級になると59.1%と男性職員（62.4%）とほぼ同水準。
- ・ 女性職員の登用推進・職域拡大について、「進めるべきと思う」と回答した職員の割合は、男性49.0%、女性27.8%。女性は役職が高くなるほど「進めるべきと思う」割合が高くなる。
- ・ 「昇任したくない」と回答した理由について、女性は「自分の能力や経験に不安があるから」と回答した職員の割合が74.1%と最も高く、「仕事と家庭の両立が難しそうだから」と回答した職員の割合53.2%を大きく上回っている。

（2）管理職の意識・マネジメント

- ・ 「仕事の分担などで男女に差があると思ったことがあるか」の問いに対し、男女ともに約4割の職員が「差があると思ったことがある」と回答。男女とも20歳代では3割未満だが、50歳代女性では6割以上が「差があると思ったことがある」と回答。
- ・ 「女性職員にとって負担が大きいと思う業務はあるか」の問いに対し、女性の課長以上では8割の職員が「ない」と回答、一方で男性は4割の職員が「ある」と回答。「ある」とした回答が最も高かったのは女性の主査の45.6%。

(3) 働き方

- ・ いずれの年代でも、女性に比べ男性の残業時間が長い傾向にあり、特に 30 歳代男性は月 51 時間以上と回答した職員の割合が 51.3%と半数を超えている。
- ・ 末子が就学前児童である女性の残業時間は月 20 時間以内と回答した割合が 79.2%であるのに対し、男性は 21 時間～100 時間と回答した割合が 72.1%にのぼる。
- ・ 「県としてどのような取組みが必要か」の問いに対し、男女とも「長時間労働をできるだけ排除し、女性も男性も働きやすい職場の実現を目指す。」を選択した職員の割合が最も高い（男性 71.6%、女性 87.4%）。また、男性では「県庁自らが率先して女性登用を積極的に進める」を選択した職員が 43.5%で 2 番目に多いのに対し、女性では「男性への意識改革、働きかけを行う」と回答した割合が 39.3%で 2 番目に多く、男女で異なった傾向が見られる。